

兄 精神科閉鎖病棟への入院
携帯電話での 声も聴かせてもらえず
病院での様子を教えてもらうこと かなわず
本も凶器になるからと持たせてもらえず
拳句の果てには

職員が入れ替わり立ち代わり

怒りあらわな 対応

現代の世に まさか まさかの出来事
胸ぐらをつかまれたよう 夜も眠れず

パートナーの発言

「つい 先日 俺にお茶を入れてくれたお義兄さん
そのお義兄さんが・・・

人間的な扱いでは無い 退院させなくては」と
入院三日後に 家族のわがままと

ひたすら お詫びをしての退院願ひ

退院した兄との60年ぶりの実家での生活

人との交わりも少なく 時が止まったかのような流れ
その中で兄との生活は

穏やかで緊張感が開放され

経験したことのない豊かな感情の起伏をも味わう

意見はあっても行動に移すことが出来ない

何気ない日常の一つ一つの動作は

前頭葉障害の兄にとり

どんなにか重く 貴いことだろうか

人の持つ司令塔の働きの凄さを

人と人との心の結びつきの素晴らしさを

兄の病気は教えてくれる

重篤な障害を患った母と

九八才まで生き抜いた父を

退職後 懸命に介護した兄が脚立から転落 後

前頭葉に障害を受け 介護を受ける身に

兄を介護していた義姉が倒れ

急遽 兄の居場所が問題に

コロナ禍と寒い冬の時期が重なり

施設は何処も満杯

障害による症状の複雑さも相まって

精神科病棟に入院

ここ一・二か月間に 5カ所の施設を転々と

今兄は

その人らしい生活や人生をと

多くのスタツフが 日夜身を粉にして

寄り添ってくれる多機能施設に

安心して過ごす兄の姿に

我が姉は 何度も涙した

障害者 家族にとり

介護スタツフは かけがえない存在

救いであり 励ましであり 勇気を与えてくれる

兄は七八年間 住みついた家を離れ

終の棲家を探す旅の途中

障害と共に 前を向いて生き抜こうとする兄

笑顔を浮かべ 真剣に耳を傾げる兄

今 あらためて

この言葉を 噛みしめる

兄と

ともに ともに ともに